

最近ヤフと下の1-3のヤルバ
読書の「香水」という記事、
なんかなあ...

元祖 石川書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

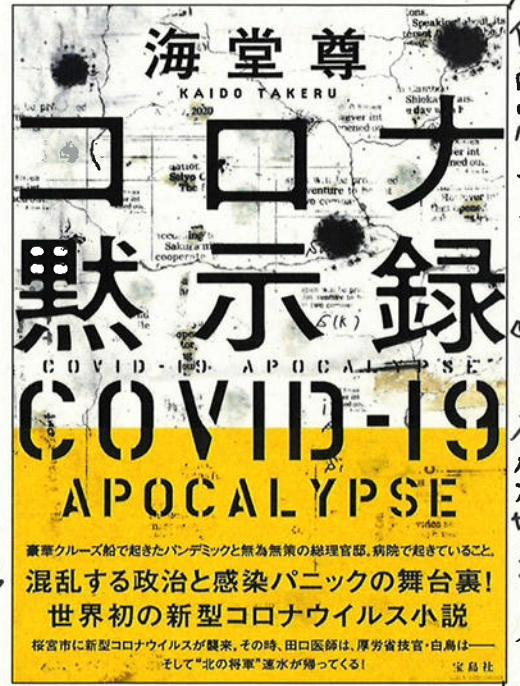
第28話 R02.07.18(金)
「フィクションをとおして
現実を見つめ直す。」

★今回、紹介する本は、『コロナ黙示録 COVID-19 APOCALYPSE』（著/海堂尊、出版/宝島社）です。

『チーム・バチスタ』シリーズや『ブラック・ペアン』などで有名な海堂さんが、コロナ禍で書いた、世界初の新型コロナウイルス小説。

実際、2～5月に日本で起こった出来事を題材に、政治も医療も全部ひっくるめて描いています。しかも、登場してくるのは、医師・田口、厚生省・白鳥、ジェネラルルーシュ・速見、医師・世良など、これまでの人気キャラが大集結し、コロナに立ち向かいます。
ドラマで、47回涼真がキャストです。

安倍総理、森友学園事件、クルーズ船、北海道の緊急事態宣言、オリンピックの中止、小池知事、病院でのクラスターなど、現実そっくりの世界の中で、常識にとらわれずに、世界を救おうとする人たちの活躍を描いた作品。ちょっと政治批判色が強いですが、このスピード感で小説を世に出すという作者の思いがすごいです。コロナ禍を見つめ直せる1冊。



個人的には、このパンデミックをシミュレーションがスゴいと思います。



『私だって間違えます。』 (p.278)

『必要なら、ルールを変えよう。』 (p.278)

現実のほんとうの姿がみえてくるかも。自分たちがいかに見えていたのかも知れません。



『小さな正義を守れな、虫且法が大義を語たらいけないだよ』 (p.331)

コロナ禍の何がスゴいのか、考えさせられます。